

令和元年度徳島県教育行政点検・評価委員会 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時 令和元年8月8日(木) 午後1時30分から午後3時まで
- 2 場 所 県庁9階 教育委員室
- 3 出席者
【委員】5名全員出席
奥村英樹会長, 上野ひとみ委員, 佐野勝代委員
東條貴司委員, 三隅友子委員
【県】 美馬教育長, 東條副教育長, 儀宝教育次長, 竹内教育次長 他

(会議次第)

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員及び事務局職員紹介
- 4 議 事
(1) 教育委員会の点検・評価(案)の説明
(2) 質疑及び意見交換
- 5 閉 会

(配付資料)

- 1 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の実施方針について
- 2 取組目標の達成状況(平成30年度対象)
- 3 教育委員会の点検・評価(案)

(委員からの御意見)

重点項目Ⅰ 地方創生から日本創成へ!「徳島ならではの」教育の推進

○キャリア教育

- ・キャリア教育には家庭との連携が欠かせない。キャリア教育の意味が保護者に十分に伝わっていない部分もあるため、わかりやすく情報提供するなど、広報が大切ではないか。
- ・インターンシップは、ねらいや目的を明確にするなど、学校と企業がさらに連携を深めて、内容を充実していく必要があるのではないか。

○ICTの活用

- ・AI人材の育成やAIリテラシーの育成など、Society5.0に対応する人材の育成については多岐にわたるため、明確なビジョンを持って取り組むことが必要である。

・電子黒板の普及など、徳島県のICT環境は全国的にも進んでいる。ICTを活用した教育を充実するとともに、教員の負担軽減につなげるためにも、ICT支援員の配置促進が必要ではないか。

重点項目Ⅱ 一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進

○主権者教育

・成年年齢の引下げ、若者の投票率が低いことを踏まえ、「社会への扉」を活用した先駆的な消費者教育のように、主権者教育を充実させる必要がある。

○消費者教育

・「社会への扉」を活用した取組が全国に広がってほしい。
・エシカル消費の推進について、例えば、フェアトレードなどは高価な商品を購入しなければいけないこともあり、経済的な裏付けも求められる。エシカルとは、倫理的などの意味で訳されるが、「相手を思いやる気持ち」が大切である。

○体力の向上

・オリンピックの機運を使い、スポーツに関心のない子どもをはじめ、多くの人を巻き込みながら事業を推進していく必要がある。
・卓球やジョギングなど、長い期間取り組めるようなスポーツを推進することで、体力の向上につながるのではないか。

重点項目Ⅲ グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

○グローバル化教育

・英語を使う機会の提供は今後も継続してほしい。
・海外との交流や留学生など、グローバル化教育を推進するためにも、事業の広報を幅広く行ってはどうか。留学生を雇用している企業も多いので、企業の協力があるとさらに充実するのではないか。

○競技力向上

・子供の数が減ってきているなかで、実数を成果指標にすると目標達成が難しくなるのではないか。
・世界で活躍した人材を積極的に活用してはどうか。
・競技団体とも連携を図りながら、シニアを活用するなど、指導者の適正配置を目指した組織的な取組が必要ではないか。

【その他全般的な御意見】

- ・全体として達成率が良いので、教育委員会をはじめ、各学校の先生方がしっかりと努力しているのがうかがえる。
- ・点数や順位だけでなく、努力の結果、改善されていることをもっと発信すべきではないか。
- ・相対評価だけでなく、絶対評価の視点も入れてはどうか。
- ・部局や所管課を超えた取組もあるようであるが、縦割りではない、つながりが必要ではないか。
- ・非常に多くの事業に取り組んでいるが、保護者をはじめ、家庭には十分浸透していないのではないか。ホームページ等、保護者がわかりやすい情報発信が必要である。
- ・点数や順位だけでなく、人と人がつながり、それぞれの力を合わせることで何ができるかという視点を持たせる教育が必要である。
- ・目標を100%に設定しており、すでに100%を達成しているものもある。これより上はないので、努力の成果が見えるような成果指標を設定したほうがよいのではないか。
- ・新たな教育大綱を踏まえた改善も必要である。